

苗場山麓ジオパーク学術研究実施報告書（鑑文）

平成 29 年 1 月 31 日

団体名（所属） 近畿大学農学部環境管理学専攻
水圏生態研究室

代表者名（氏名） 森下 來美

1 研究の名称

苗場山麓ジオパーク周辺水域におけるシナイモツゴの生息環境調査

2 研究のテーマ

苗場山麓ジオパーク周辺水域におけるシナイモツゴの分布

3 調査・研究等の日程と概要（調査区域や地点・調査方法など）

※これまでの実績と今後の予定

日程	主な調査・研究等の概要
平成 28 年 8 月 16 日	ジオパーク内 箇所のため池および水路内で網モンドリ・たも網を用いた魚類採集を行った。また採集時に目視などで観察された生物も記録した。
～	今年度の調査では昨年度確認されなかったメダカの生息地が 2 ヶ所で確認された。シナイモツゴは信濃川より北部で生息が確認された。
平成 28 年 8 月 19 日	

4 調査・研究結果（概要）

新潟県苗場山麓および魚沼地方のため池・池沼群はともに日本の重要湿地 500 に選定されている。さらに有数の米生産地でもあり、良好な里山環境が保全されている。本地域には絶滅危惧種シナイモツゴ *Pseudorasbora pumila* が分布するなど、生物多様性の観点から重要な湿地として認定されている。しかし、他魚種を含む魚類相の実態はほとんど明らかにされていない。そこで苗場山麓ジオパークのため池群を対象に、昨年度同様魚類相調査を実施した。11 ヶ所でモンドリとたも網を用いた結果、今年度は 1 ヶ所で高密度にシナイモツゴが生息していた溜池を発見したほか、近年全国的に減少傾向にある野生のメダカやクロサンショウウオをはじめとした希少両生類、大型の希少水生昆虫などの生息も確認された。

中魚沼郡の周辺では昨年度の調査ではシナイモツゴの生息域は中津川より東側となっていたが、今年度の調査により、さらに信濃川北部でもシナイモツゴ生息域が確認された。本地域および周辺地域はシナイモツゴの国内最大の生息地として極めて重要な地域であると考えられる。今後、本地域全体のシナイモツゴの生息状況について把握し、保全していくためには継続調査が不可欠である。

本研究にあたり、苗場山麓ジオパーク振興局佐藤信之様、瀧澤美樹様をはじめとする苗場山麓ジオパーク事務局、「なじよもん」スタッフの皆様には、多大なご協力をいただいた。また、本研究は苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業の助成により遂行された。ここで深く感謝の意を表す。

（研究参加者）

近畿大学大学院農学研究科環境管理学専攻
博士前期課程一年 森下來美

近畿大学大学院農学研究科教授 細谷和海
元津南町役場税務町民課 村山郁夫

※調査・研究結果がわかる資料を添付してください。